

情報連絡員報告総括表（令和6年11月分）

三重県中小企業団体中央会
連絡員総数 40名
回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況								
		増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化						
製 造 業	食料品	1	3			4		3	1			4			3	1		4		1	3			4			4							
	繊維工業		1	2		3		1	2			3			3			3			3		1	1	1		2	1						
	木材・木製品			1		1				1			1			1		1				1		1				1						
	紙・紙加工品		2			2		2			1	1			2			2			1	1		2			2							
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1							
	化学・ゴム																																	
	窯業・土石製品		2	1		3		1	2			2	1		3			3			3			3			2	1						
	鉄鋼・金属	1				1			1			1		1				1			1			1			1							
	一般機器		2	1	1	2		2		1		3			1	2		2	1		1	2	1	2			2	1						
	電気機器			1		1			1			1				1			1			1		1				1						
	輸送機器	1					1	1				1		1				1			1				1			1						
その他																																		
小計		3	11	6	1	18	1	10	8	2	1	17	2	2	13	5		18	2	1	14	5	2	16	2		14	6						
非 製 造 業	卸売業		2			2		1	1			2			1	1		2		X				2			2							
	小売業	1	4	1		6		3	3			4	2		4	2		4	2					6			4	2						
	商店街	1				1		1				1			1			1						1			1			1				
	サービス業	1	2	1	X			2	2			4			3	1		3	1					4			4			3	1			
	建設業	1	3					1	3			4		1	3		1	3						4			4			1	3			
	運輸業		1					1			1				1			1						1			1			1			1	
	その他	1	1					2				2			2		1	1						2			2			2			2	
小計		5	13	2		9		9	11			18	2	2	14	4	1	16	3		20			1	16	3								
合計		8	24	8	1	27	1	19	19	2	1	35	4	4	27	9	1	34	5	1	14	5	2	36	2	1	30	9						

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和5年11月～令和6年11月)

三重県中小企業団体中央会

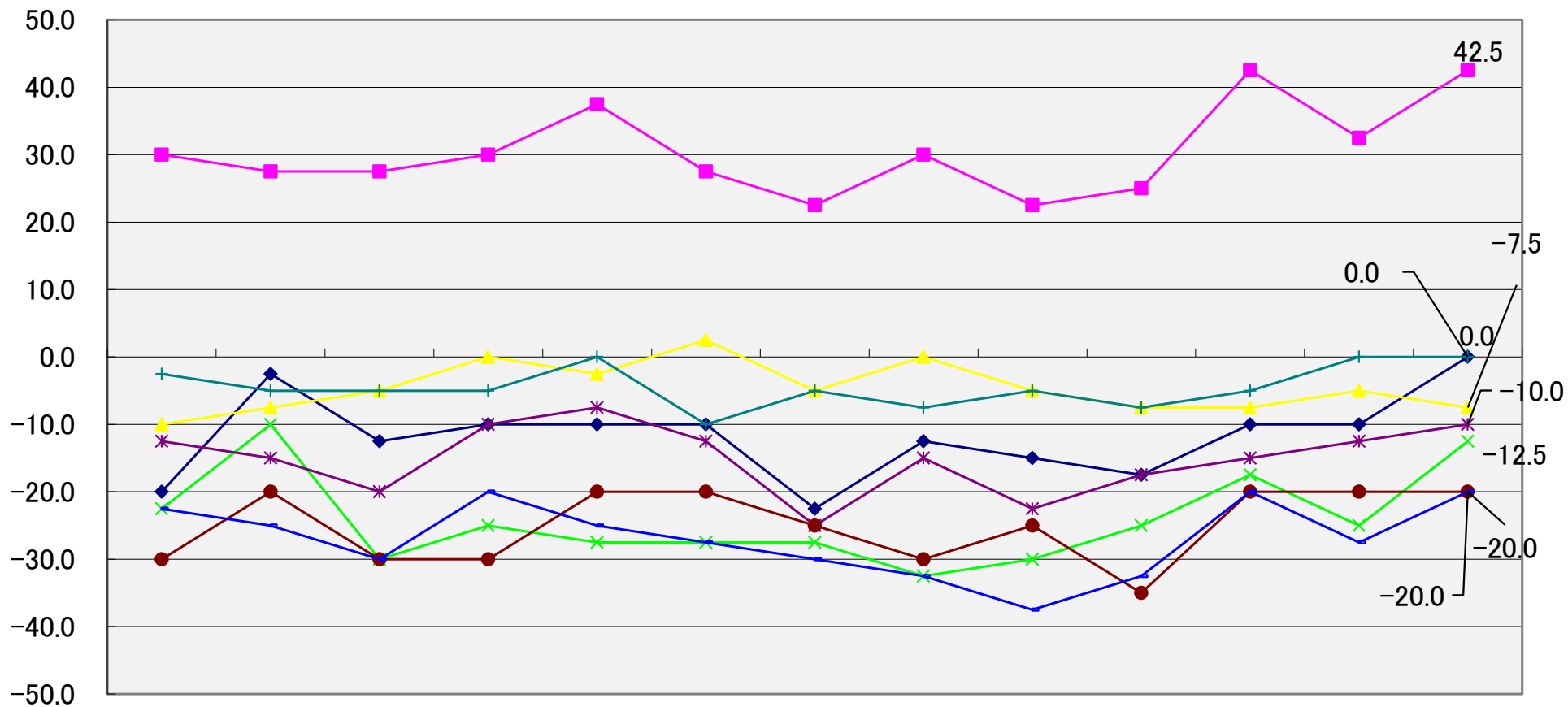
連絡員総数 40名

	5/11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	増減
売上高	-20.0	-2.5	-12.5	-10.0	-10.0	-10.0	-22.5	-12.5	-15.0	-17.5	-10.0	-10.0	0.0	10.0
販売価格	30.0	27.5	27.5	30.0	37.5	27.5	22.5	30.0	22.5	25.0	42.5	32.5	42.5	10.0
取引条件	-10.0	-7.5	-5.0	0.0	-2.5	2.5	-5.0	0.0	-5.0	-7.5	-7.5	-5.0	-7.5	-2.5
収益状況	-22.5	-10.0	-30.0	-25.0	-27.5	-27.5	-27.5	-32.5	-30.0	-25.0	-17.5	-25.0	-12.5	12.5
資金繰り	-12.5	-15.0	-20.0	-10.0	-7.5	-12.5	-25.0	-15.0	-22.5	-17.5	-15.0	-12.5	-10.0	2.5
設備操業度	-30.0	-20.0	-30.0	-30.0	-20.0	-20.0	-25.0	-30.0	-25.0	-35.0	-20.0	-20.0	-20.0	0.0
雇用人員	-2.5	-5.0	-5.0	-5.0	0.0	-10.0	-5.0	-7.5	-5.0	-7.5	-5.0	0.0	0.0	0.0
業界景況	-22.5	-25.0	-30.0	-20.0	-25.0	-27.5	-30.0	-32.5	-37.5	-32.5	-20.0	-27.5	-20.0	7.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

5/11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月



◆ 売上高
 ■ 販売価格
 ▲ 取引条件
 × 収益状況
 ✱ 資金繰り
 ● 設備操業度
 + 雇用人員
 — 業界景況

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の生産量が減少し、供給不足が続いている。また、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰、特に電気代が上がり、経営を圧迫する状況が続いている。今年の秋蒔きの原料野菜栽培において、例年に見られないような高温及び乾燥が、生育へ影響を与えており、原料野菜の不足傾向が続いている。今年度からJA多気郡が本組合に入会し、伊勢たくあん製造のための原料栽培が始まり、伊勢たくあんの振興に向け進めている。
	醤油味噌	前月から大きな変化はなく、引き合いはあるものの末端での需要は相変わらず低迷している。年末の需要期に向け生産は活発になりつつある。海外への輸出向け商品が増加傾向である。一部で人手の足りない事業者も出てきているが、中小零細、製造業ということで採用には至っていない。高齢化が進み、後継者の若手人材の確保は厳しい。原材料関係では、中国は大豆生産量1640万トン(2025年末までに40%UP)の2300万tに増やす方針を打ち出している。米国大豆の依存を減らし、食糧需給の改善を目的にしている。これが進んだ場合には米国大豆の需給バランスが崩れることで大豆が安価になる可能性も出てきている。小麦はロシア、フランスなどが干ばつや多雨から10%程度の生産減見込みから小麦相場が上昇気味である。日本では米相場が上がっているが、世界最大の輸出国であるインドが生産回復で輸出緩和を進めたことから国際相場は急落し始めている。□
	他に分類されない食料品 製造業	今年ももう12月に入った。103万円の壁の話が気になる。パートの社会保険加入で経費が増えている。期末手当をどうすべきか考えてしまう。毎年この時期に年賀状の必要性はあるのかと思う。否定的なことばかり言わずに前向きで元気を保ちたいと思う。
	製麺	第64回全国製麺業者東京大会が10月23日に210名が参加して行われた。今回はパネルディスカッションで三重県からは理事長がパネラーとして参加し、伊勢うどんの魅力について発表した。また、東海ブロック研修会は名古屋市内で開催され、50名が参加した。今回は三重県が担当し、四日市市の「おにぎりの桃太郎」の上田会長が講話した。
木材・木製品	木材	木造住宅は引き続き需要が低迷しており、依然として製材工場は原木高・製品安傾向の中、厳しい経営環境を余儀なくされている。
紙・紙加工品	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。従業員の確保が困難である。
	古紙	11月の仕入量は、段ボール・約92±8%、新聞、チラシ・約86±12%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約85±15%である。朝晩前年が悪かったからか、秋需があったのか分からないが段ボール古紙の発生は生産流通量と同じくらいのところと、11月からスーパー等の大規模顧客の段ボール古紙の取引が他社に移ることになった各組合員は取引先との段ボール古紙回収の業務契約が管理会社を通して大きくマイナスとなっているようである。大統領・国政・地方選挙等で結果が出て倫理的に良い悪いも評判や力量でリーダーが決まり企業運営にも力量と評判と要領が良い等が大きく左右されることを恐ろしく感じられる所であるが、選挙が終われば古紙回収の問い合わせがあることは大きな救いである。日銀の金利引上げで対ドル買は乱高下を繰り返して円高方向に向かい、段ボール古紙の輸出価格は国内価格より安くなった。当社の新聞雑誌古紙取扱量は減りすぎている状態で前年比も前月比も乱高下となり統計上の参考となりにくい。古紙・古着の持ち去りやゴミ等の置き去り行為も増加に転じる感があり、より良い社会づくりの為に御指導御鞭撻御尽力を関係各所・適材適所をお願いしたい。
印刷	印刷	11月においては、年賀状の値上げと、SDGSに関連させ二酸化炭素排出量削減と地球温暖化防止を理由とした年賀状廃止事業者が昨年より増加した。個人についても、若い世代では特に顕著で、年賀状文化が薄れつつある。他の印刷物については、例年並みの受注量を確保している。
	伊賀焼	業況は上向きになりつつあるが、価格への転嫁、材料費の高騰などへの対応ができていない組合員も多く、頭を悩ませている。
鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、増加傾向が顕著となっている。中心は自動車関係であり、従来の燃料系のほか、EV関連の受注も増加しており、引き続き堅調な状況が期待できる。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
一般機器	四日市市	全体的には冷え込んでいる状況が相変わらず続いている。引き合いとしては少ないわけではないが、設備投資を前向きに検討している企業が少ないように思われる。特に中小企業の設備投資欲は高くなく、また新規案件に関わる設備導入の気配はあまりない。既設設備の老朽化からの更新検討はしているがなかなか受注までにはつながらない。機械加工部品についても発注量が多いとは言えない。また価格の低迷も続いていると感じる。
	津市	同じ自動車部品でも取引先によって、好調なところと低迷しているところがあるため、受注が予測しにくい状況である。但し、合計でみると昨年より悪い。EV関連の伸び悩みが影響していると思われる。長期内示は少し上向くとこの情報はするため、情報通りの確定注文がくることを期待したい。
	伊勢市	相変わらずの厳しい状況が続いている。今年の春頃に、今年は悪い状態が続くと予想していたがその通りになってしまった。設備投資の意欲が低く、特に自動車関連の稼働率は低く、工作機械も同様である。
電気機器	鳥羽市	10月、11月は相変わらず動きがなく低迷した状態である。稼働率が80%で厳しい状況である。
輸送機器	伊勢市	当月は、売上が昨年と比べ増加した。稼働日数が多かったことに起因するかもしれないが、底打ちかどうかはまだ判断できない。
小売業	青果	野菜前半：品目によって入荷にはばらつきがあり値上がりしたものが多い。夏場の高温で生育が遅れていた兵庫県産、茨城県産レタスの価格が落ちてきた。トマト、ミニトマトもやや値下がりしつつある。鹿児島県産のジャンボいんげん、愛知県産、静岡県産のセロリも値を下げた。愛知県産、茨城県産のキャベツは入荷が安定せず高値が続いている。茨城県産さつまいもは例年並みの価格で甘みが強い。 野菜後半：夏場の高温の影響が続く、入荷が不安定なものが多く高値で推移している。愛知県産ブロッコリーの入荷が増え、安くなってきた。愛知県産、茨城県産白菜の入荷が安定して求めやすい価格になった。愛知県産、千葉県産の大根も高値の反動で値下げした。地場産のほうれん草、小松菜は順調に入荷している。 果物前半：全国的に作況が悪く、入荷は少なめである。リンゴは、長野県産、青森県産ともに入荷が少なめであり、高値が続いている。ラ・フランスは、山形県産の入荷が順調であり、手に届きやすい価格となっている。みかんは、三重県産、和歌山県産、愛知県産、静岡県産の入荷が少なめであるが、各産地とも味がのっておいしく、価格は、昨年よりやや高値である。いちごは、気温が高い影響で年々入荷が早くなっており、11月から5月までと長いシーズンが始まる。 果物後半：柿は、種なし柿、次郎柿に続いて早生富有柿を入荷しているが、量が昨年より少なめである。リンゴは、長野県産の「サンフジ」がピークであり、大玉が多い。みかんは、各産地とも入荷が昨年より少ない。柿は、岐阜県産の富有柿がカメムシの被害で入荷が少ない。いちごは、入荷が順調であり価格も今の時期にしては買得である。
	自転車	先月に続き商品の動きはストップしている。少子化による市場縮小を見据えて、各店舗は新入学商品の展示数を控える傾向にある。また、いまだに原材料費、人件費の高騰は続いており、またしても今回11月の受注分より、シマノ製品、中谷金属工業、昭和インダストリーの各部品メーカーは5%~15%、パナレーサーに至ってはタイヤ、チューブについて10%~30%の値上げ価格改定を打ち出してきた。業界を取り巻く環境として自転車ヘルメットの必要性に続き、11月1日の道交法改正で自転車の飲酒運転、スマートフォン操作の罰則強化が新たに加わった。警察庁、都道府県警察のポスターも厳しさを示すものばかりである。そのような中、今回、(一社)自転車協会発表の「踏み出せば楽しい気分」のポスター、のほりのツールは販売促進につながる明るさを感じられる。
	電器	価格高騰が引き続き起きているが、商品の動きや売れ行きに関しては落ち着いてきたようにも思う。各商品の売れ行きに関しては年末に向かう前の少し落ち着いた状況であり、全体としては省エネ家電の話題がよく出ている。LED照明が普及する中で蛍光灯がなくなっていくところも注目である。
	石油	2021年12月から長期にわたり燃料油価格激変緩和事業を実施してきた。政府は2024年12月より、燃料油価格激変緩和対策事業で行っているガソリン等への補助金について、補助率を段階的に縮小していくことを公表した。この補助率縮小により、具体的には12月19日(木)からガソリンの全国平均小売価格が現状よりも5円程度上昇、2025年1月16日(木)からは更に5円程度上昇し、2カ月合計で10円程度上昇する見込みとなった。このことから、各都道府県(官公需担当)部長宛に経済産業省資源エネルギー庁 資源・燃料部 燃料流通政策室より物件及び役務の契約の途中で、ガソリン、軽油、灯油、重油及び航空燃料の実勢価格に変化が生じた場合には、契約金額を変更することについて検討し、契約変更の実施も含め、適切に対応することなどを受け、三重県行政部局と協議の結果、上昇後の価格を再調査の上、採用単価とすることに決定した。石油小売業界にとっては5円程度の値上げは経営に大きく関わる問題である。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	熊野市	熊野古道世界遺産登録20周年の記念事業として位置付けられた今月の商店街朝市イベントは、バイク関連の人気女性ユーチューバー2名を招いて開催され、大いに盛り上がった。関東や関西方面から泊りがけで来られたバイカーも多数おられ人気のほどが伺えた。12月は地元産養殖まぐろをPRするイベント「熊野まぐろ祭り」が開催される予定となっている。
サービス業	旅館	秋のシーズンであり10月、11月は期待していたが、実質の消費支出が依然として低迷する中で、個人の節約志向が浮き彫りとなっていることに加えて、食材価格や水道光熱費の高騰でダブルパンチとなり、コロナ禍で大きな影響を受けた宿泊業界が回復するには前途多難な状況が続いている。前年同月比90%、2019年同月比70%程度のようなのである。
建設業	総合工事業	10月末時点の公共工事の県内企業の受注状況は、前年度同月と比べほぼ同額であるものの、国等の契約が減少している状況である。
	内装工事業	11月は、対前年同月比で大幅な増加となった。先月に続きプラスの流れとなっている。このまま年末まで続いてほしい。
	水道工事業(亀山市)	亀山市の量水器の委託業務が完了し、今年も計画数量であった。また、大型の量水器の取替えを12月に行う予定である。漏水委託業務についても事故無く行っている。亀山市の工事件数は減少傾向にあり、年々規模も小さくなっている。資材価格も上昇したままで収益を圧迫している。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	12月11日(水)にあやひかりとASW(オーストラリアン・スタンダード・ホワイト)の今年的小麦粉を生うどんとして作り、試食会を開催する。よろしくお願ひします。
一般機器	四日市市	物価上昇、賃金アップ、人不足と事業環境は厳しく、業界全体で活況な業種が少ないように感じる。中小企業の今後の経営環境が改善されるよう支援をよろしくお願ひいたします。
サービス業	旅館	全国割・県民割等の需要喚起策を早く実施するとともに、金融支援も必要です。金融機関への働きかけをお願いします。